

外部専門員の活用がはじまりました！

新緑に染まる木々や晴れて澄み渡る空に子どもたちの元気な声が響きます。早いもので新年度が始まって2ヵ月がたとうとしています。

今年度も外部専門員の活用がはじまり、順調に積み重ねております。今年度は計6回の外部専門員通信を発行し、本校の専門性を高めるための取り組みを保護者の皆様に紹介していきます。

□■□■ 本校に来校する外部専門員の役割 ■□■□

自立と社会参加に向けた指導内容の充実を図るとともに、教員の専門性を向上させるため様々な専門職種等を招いています。職種とお名前と役割を紹介します。

理学療法士

平塚 乃梨氏

身体機能面を評価し、学校生活で取り入れやすい運動方法を一緒に考えます。必要な介助方法や環境設定も検討します。

作業療法士

阿部 真理子氏

生活動作をよりよく行えるようにするための環境設定や道具の選定、練習の計画を提案します。

言語聴覚士

高林 喜美子氏
田中 伸二氏

ことば・コミュニケーションの評価と発話、発声、認知面での必要なアプローチについて検討します。

臨床心理士

齋藤 和恵氏
大澤 ちひろ氏

観察・面接・心理テストなどを通して個々の発達や成長、固有な特徴や課題を明らかにし、どのような方法で援助するのが望ましいのかアドバイスします。

学習アドバイザー

富岡 康一氏

発達段階に応じた学習課題や指導内容へのアドバイスを行い、個別のケース相談や授業改善の相談を行います。

視能訓練士

釣井 ひとみ氏
三田 真弓氏

「目」の健康管理について指導、助言をします。視能矯正・視機能查を行い、見えにくさを様々な方法で補い生活の質の改善を支援します。

ICTアドバイザー

吉川 和光氏
海老沢 穰氏

タブレット端末を活用した授業作りの相談
タブレット端末のアプリやアクセシビリティ機能の活用についてアドバイスをいたします。

摂食指導
(歯科医)

西村 滋美氏

より安全に食べられるよう摂食機能について実態を適切に把握し指導・助言を行います。

教材作成
アドバイザー

若杉 哲文氏

児童・生徒や授業の観察により個々の実態や興味・関心に応じた教材・教具づくりのアドバイスをします。

第 1 号では、学習アドバイザー富岡康一氏による、本校で活用しているアセスメントの一つでもある「太田ステージ評価」の紹介です。

外部専門員 合同会社学習室クレメント 富岡康一

○子どもを多角的にとらえる

身体に合った服は着心地がいいですね。新しい服を買う時、必ずサイズを確認するはずですが、しかし実際に服を買う時は、サイズ以外の条件の方が重要です。好きなデザインやブランドが先あって、欲しい服が決まってからサイズを探します。



太田ステージは服のサイズに該当し、「言語理解力」をあらわしています。

その他に重要な情報が「描画」です。服にたとえるとデザインでしょうか。どんな絵を描くかは、発達段階によってだいたい決まっています。

学習や作業を行う時、手で何かを操作することが多いので、「微細運動発達」をとらえることも重要です。服にたとえると縫製でしょうか。

クモの巣を張る時、最初の 1 本の糸がなければ巣になりません。太田ステージは最初の 1 本です。それだけでは何の役にも立ちませんが、それがなければ何も始まりません。これに続けて 2 本目 3 本目 4 本目・・・以降の糸を張り巡らし、様々な視点から子どもの実態を捉えるようにします。

できあがったクモの巣がバランスよく円形になっているとは限りません。どこかゆがんでいるのが標準です。中には、とても大きくゆがんでいたり、一箇所だけが突出していたり落ち込んでいたりする場合があります。情緒的に不安定な場合、ほとんどの場合こうした「発達の偏り」が背景にあります。



○テストとは

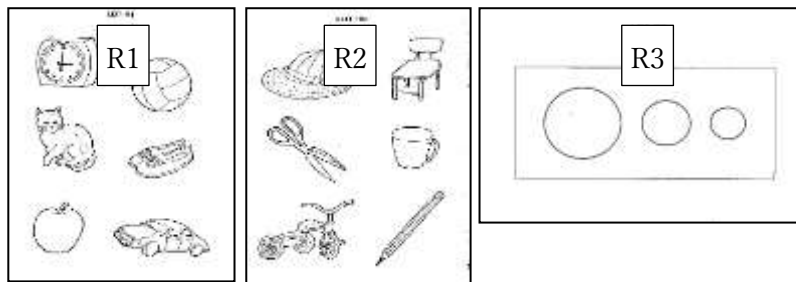
太田ステージを測定するテストを「LDT-R」といいます。実施に資格は不要で、誰でも実施できます。検査器具も身の回りの物で代用できます。テストの方法は簡単で、決められたとおりに子どもに問いかけて合否を記録するだけです。

重要なのは「決められたとおりに」の部分で、問いかけ方を勝手に変えてしまうと結果（ステージ）が間違っ出てしまいます。テストのやり方と結果が学問的に保障されているところが、描画や行動観察とは違うテストのテストたるところです。

一方、LDT-R が測定しているのはあくまで「日本語の理解力」なので、日本語がわからないハーバード大学の学生はステージ I ということになります。ひとつのテストだけでは、その人のことを正確に理解することはできません。

テストをすると、「合格なのか不合格なのか迷う」ことがあります。そんな時は迷わず「不合格」にした方が「お得」です。迷った時に合格にして高めの結果を出すと高めの課題設定をすることになり、失敗のリスクが増えます。迷った時に不合格にして低めの結果にしておけば、成功体験が増える可能性が高まります。必要なのは成功体験で、ステージいくつというレッテルではありません。

○ LDT-R



テスト（LDT-R）は、R1 から R6 までの6種類があります。上は検査器具の一部です。それぞれのテストを通過するごとにステージが決まります。結果は、ステージⅠからⅤとあらわします。非常にざっくりと言うと、ステージⅠは1歳、Ⅱは2歳、Ⅲは3歳、Ⅳは4歳と考えて差し支えありません。細かく書くと下のようになります。実際には細かい操作基準があったり、ステージに下位分類があったりします。

テスト結果	LDT-R1 不通過			R1 通過	R2 通過	R3 通過	R4 通過	R5 通過	R6 通過
ステージ	I-1	I-2	I-3	Ⅱ	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅳ前期	Ⅳ後期	Ⅴ
定型換算	6ヶ月	1歳	1歳半	2歳	3歳	3歳半	4～7歳		それ以上

LDT-Rの実施方法（具体的な問いかけのしかたや可否の判定基準）を知りたい方は、学校までお問い合わせいただくか、書物をご参照ください。

○各ステージの特徴（標準的な状態像です。実際には子どもによって異なります。）

ステージⅠ 日本語がわからないという点が最も重要です。ことばで何かを説明したり、言い聞かせたりしても理解できません。しかし、まったくコミュニケーションがとれないわけではありません。その人が自分のことをどう思っているのかを、誰よりも敏感に感じ取ります。受け身になりがちなので、自発的な要求をどう引き出すかが課題です。集団参加や動作模倣は困難な場合が多いです。

ステージⅡ 日本語は名詞だけは理解できます。いたずら（わざと悪いことをして大人の注意を引く）や「イヤイヤ行動」が増えます。これらは私たちも通った成長の過程で、本人は大まじめです。名詞の語彙を増やすことが課題です。

ステージⅢ-1 名詞と動詞が理解できます。予定表が理解できるようになり、一週間くらいの見通しが立つようになります。身の回りのことが自分でできることが増えるのと同時に、こだわりが増える時期でもあります。また、思考が硬く、臨機応変が苦手です。動詞の語彙の拡張と数の概念の基礎の習得が課題です。

ステージⅢ-2 形容詞が理解できるようになります。簡単な口頭でのコミュニケーションがとれるようになり、臨機応変に対応できるようになり、集団参加や動作模倣が良好になります。本校の教育課程が最もフィットする段階です。取り扱うべき学習内容が多岐にわたります。言い方を変えると、この段階以前に「ていねいに」とか「やさしく」などと言っても伝わりません。

ステージⅣ 助詞が理解できるようになります。口頭でのコミュニケーションがおおむね不自由なくできます。教科学習が可能になります。

【問い合わせ】

東京都立高島特別支援学校

Tel 03(3938)0415

副校長 渡部 早苗

研究研修部 宮越弘子